聖心ウルスラ学園聡明中学校・高等部 ＮＩＥの取り組みについて

聖心ウルスラ学園聡明中学・高校
教諭　緒　方　ま　ほ

（序）ＮＩＥ取り組みの経緯

聖心ウルスラ学園聡明中学校・高等部は中学１年生から高校３年生までが在籍する中高一貫校である。令和２年度は中１が２クラス、中２～高３が各１クラスの７クラスで編成されており、新聞教育はこれまでは各授業担当者やクラスが独自に行っていた。新聞はクラスに１紙ずついきわたるように購読されてきた。毎朝マリアホールと呼ばれる共有スペースに、各社の新聞が置かれ、係が取りに来るスタイルで継続されてきた。新聞もあり、クラスによってはしっかり新聞教育が行われていたが、聡明全体を通しての意識付けがなかったため、ＮＩＥ独自認定校に応募し、認定していただいた。

（１）学校としての取り組み

ＮＩＥ取り組みの目的

〇新聞に親しみ、新聞を読む習慣を身に付けた生徒を育てる。
〇各担当者が独自にやるのではなく、学年を越え、みなで取り組む雰囲気を作る。
〇生きた知識を身に付けさせ、生徒の今と未来をつないでいく。

NIE 取り組みの方法

〇教員は国語科代表（緒方）社会科代表（四倉）理科代表（中谷）の３教諭が主となり行う。
〇2 学期より、第１，３，４，５土曜日の朝課外（8：00～8：30）の時間に行う。
〇ワークシートを利用する。
〇学年末にはまとめ（中学は新聞コンテスト、高等部は四倉先生によるまとめ）を行う。

活動は中等部と高等部で異なるため、中と高で分けて報告を行います。

ワークシートを利用するだけでなく、１人１紙配り、興味がある記事を探しまとめるときもあった。みな生き生きと活動している。

聖心ウルスラ学園聡明**高等部** NIE 活動報告書

文責：NIE 担当教員　四倉　武士

（１）学校としての取り組みは１ページ目をご参照下さい。

（２）．高等部における実践事例

①　読売新聞社の「読売ワークシート通信」を活用。

②　事前に配布したワークシートを火曜日の放課後までに提出する。

③　担当教員が提出されたものを一枚一枚添削する。

④　木曜日の朝に、提出されたものを元に講義を行う。

（書く時のポイント、記事の内容についての補足、良かった人のポイントを紹介）

⑤　授業後反省を行い次回につなげる。

（３）1.実践前後の変化、感想

最初は記事を読むことすらできなかった生徒や、長文を書くことができなかった生徒もだんだん新聞を読むようになり、文章も書くことができるようになった。この活動を通し世の中の動きに興味を持つ生徒が増え、社会の仕組みや構造を理解できるようになった。小論文などの書き方指導も並行して行っていたため、進路実現に向けた取り組みもできていた。新聞学習を続けていけば、受験にも役立ちそうだという生徒の感想が多く寄せられた。

（３）2.実践者の感想、課題・反省点

毎週生徒が書いてきたものを添削する大変さはあったが、徐々に書けるようになっていく生徒を見ているとやりがいがあった。指導者自身の見えていなかった記事の内容や、視点などを生徒が書いてくることもあり、私自身が勉強になることもあった。

毎週新聞を読み、それに対する考えを文章化するという作業を続けていった結果、社会への興味や読解力の向上、文章が書けるようになるなどの効果があり次年度も続けていこうと思う。しかし毎週生徒全員分の添削を行う労力があるため、次年度は作業分担などを行い教員に対する負担を軽減していきたいと考える。

⑤

自分の知らない用語、漢字を調べ、意味と読みを書きなさい。

[発展問題]

私たちは、化学や科学といった技術を支援することができると考える。物質の支援や募金などによる支援は、直接的な支援ではないが、がたいがある。しかし、科学技術を使い、環境したような土地でも安定した穀物の栽培ができる作物の技術や知識を支援物資として送ることで、その国の安定した食料確保を目指せるだろう。そのために、今、私ができることは、今の日本の状況や科学技術への興味・関心をもち、将来、日本だけでなく、国際的な平和を目指して仕事のできる人間になるために知識をつけることができると考える。(今は直接的な支援はできないが、職業は様々という未来の見通しがたてられている今、未来に向けてがんばることが私個人のできることだと考える)

他者の意見をメモしよう

高校生の実施例　教員が用意した新聞記事を読み、自分なりに考察していきます。最初はただの感想になっている生徒が多かったが、回数を重ねることで、様々な視点を持って考察することができるようになりました。

聖心ウルスラ学園聡明中等部 NIE 活動報告書

文責：NIE 担当教員　緒方　まほ

（1）学校としての取り組みは 1 ページ目をご参照下さい。

（2）中等部における実践事項

① 読売新聞社の「読売ワークシート通信」を活用。

② 土曜日の朝課外を利用し、「まずは読んでみよう」という観点から実施する。

③ 担当教員が提出されたものを一枚一枚添削する。

④ 内容が良かった生徒のワークシートを印刷し、次週の指導に使う。
（書く時のポイント、記事の内容についての補足、良かったポイントを紹介）

⑤ 学年末には第 1 回新聞コンテストを行い、緒方賞、四倉賞、中谷賞と三つの賞を設けた。

（3）1. 生徒の変化・感想

NIE 以外にクラスで新聞教育をしているクラスとそうでないクラスとの差が大きかった。普段から実施しているクラスは、枠いっぱいに感想を書き、読もうという姿勢があったが、普段実施していないクラスは、２，３行の感想しか書かない生徒も多くいた。

最終的には居眠りする生徒や退屈している生徒はおらず、抵抗感なく活動していたので、まずはやってみてよかったと感じた。テストではなかなか点数が取れないが、「新聞なら俺に任せろ！」という生徒が現れ、クラスで盛り上げるシーンもあった。

（3）2. 実践者の感想・課題

宮日新聞社が取材に来られ、新聞に掲載された時には保護者から多くの関心が寄せられた。普段はあまり気にすることなったが、保護者も新聞教育の必要性を感じているということがわかった。新聞に掲載されたことがきっかけでもっと新聞教育をやっていこうという雰囲気が生まれたことが何よりうれしかった。

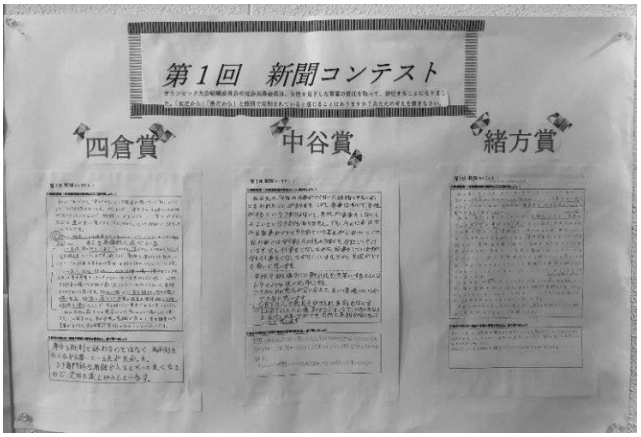
最後の新聞教育の日は第 1 回新聞コンクールとして、優秀賞を三つ設定した。選ばれた生徒は喜んでいた。新聞がこれからも何かのきっかけになればと思っている。

来年度は 1 学期より朝課外に新聞学習の時間を入れ、「聡明に入ると 6 年間新聞を読んでいくんだよ」という学校の姿勢を生徒たちに示していきたいと考えている。

生徒だけでなく、教員にも新聞学習の大切さを伝えることができたのではないかと感じ

ている。ＮＩＥ独自認定校に認定していただいたことを無駄にしないように、来年度に活かしていきたい。

教卓にいっぱい新聞を並べ、好きな新聞を取っていいよと声かけすると、中学生はいつも競い合って新聞を取りに行きます。お家では新聞を取っていない生徒や読まない生徒が大半ですが、この時だけは熱心に活動しています。



第１回新聞コンテストの結果は廊下に掲示しました。新聞記事からジェンダーについて考えるというお題で行いました。入賞した生徒にはウルスラノートが贈呈され、良い機会になりました。生徒は「選ばれた！」と喜んだり、「選ばれた○○ちゃんの感想はすごい！」と話しており、効果を感じました。